熊本県博物館ネットワークセンターだより

熊本の自然と文化

編集・発行　熊本県博物館ネットワークセンター

2025 年 7 月 11 日

No. 61

©2010 熊本県くまモン

イベント情報（令和 7 年 7 月～令和 7 年 10 月）

企画展　　会場：熊本県博物館ネットワークセンター　　入場無料

第 1 回企画展「花をよ～く見てみよう」

花のつくりを観察することによって感じることができる、植物の分類、進化、繁殖戦略などを紹介します。

〇開催期間　令和 7 年 6 月 24 日（火）～12 月 21 日（日）

フィールドミュージアムへ飛びだそう！

プログラム名	開催場所	日時	定員	内容	受付期間
水辺の生き物を観察しよう	天草市 福連木子守唄公園	9 月 13 日（土） 10:00～12:00	20 名	魚や水生昆虫など水中の生き物を観察します。	8 月 13 日 ～8 月 27 日
植物体感ウォーク	宇土市 立岡自然公園	9 月 27 日（土） 10:00～12:00	20 名	植物のいろいろな特徴を体感します。	8 月 27 日 ～9 月 10 日
化石の観察をしよう	上天草市龍ヶ岳町 椚島	10 月 4 日（土） 10:00～12:00	20 名	白亜紀の地層や化石を観察します。	9 月 4 日 ～9 月 18 日
海岸の砂から砂鉄を探そう	宇土市 住吉海岸公園	11 月 2 日（日） 10:00～12:00	20 名	海岸の砂の中から砂鉄を探します。	10 月 2 日 ～10 月 16 日

対象：幼児～一般　　※小学校 3 年生以下は保護者同伴

申込み方法：熊本県・市町村共同システム「熊本県電子申請システム（LoGo フォーム）」または、往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望プログラム名をご記入の上、申し込みください。申込み多数の場合は抽選で参加者を決定します。右側の二次元バーコードからも申し込みができます。

申込フォーム

（往復はがきで申込みの場合は、返信用はがきに住所・氏名を記入してください。締切必着。）

記載されている行事は、感染症や災害等の影響により日程や募集人員が変更になる場合があります。詳細は当センターにお問い合わせいただくか、ホームページで御確認ください。

No.314 動物　ヒメネズミ　*Apodemus argenteus*（ネズミ科）

ヒメネズミ（図 1）は、アカネズミ *Apodemus speciosus* とともに日本で最もよく見られる野ネズミの一種で、いずれも北海道から九州までと、それらの周辺離島に生息しています。両種は姿もよく似ていて、成獣どうしの比較ではヒメネズミの方がアカネズミよりも小型であるものの、野外での目撃や写真から両種を識別（同定）することは困難です。両種は体サイズ以外にも、尾率（全長に対する尾の割合）、後足長、毛の色、目の大きさなどに違いがあり、正確な同定のためには偶然に死骸を拾得するか生体を捕獲して、これらの特徴から総合的に判断することになります。捕獲においては鳥獣保護管理法における許可を得た上で、シャーマントラップなどの生け捕り罠を用いると個体を損傷させずに捕獲することができ（図 2）、また、必要なデータをとった後に再び野外に逃がすこともできます。

一般にはほとんどその存在を認知されていないヒメネズミですが、本種が野外に多数存在することでドングリなどの種子散布を助けたり、フクロウやノスリ、キツネなどの重要な餌資源となるなど、生態系において重要な役割を担っています。（中薗　洋行）

図 1　ヒメネズミ標本（宇城市産）

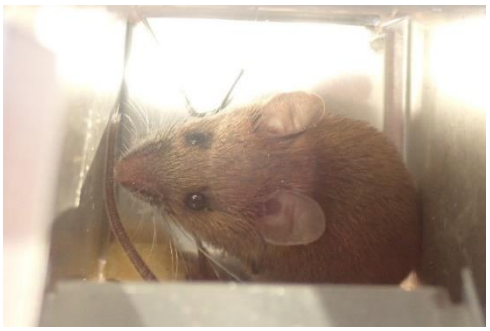


図 2　シャーマントラップに入ったヒメネズミ（阿蘇郡高森町）

No.315 植物　トビカズラ　*Mucuna sempervirens*　（マメ科）

つる性木本で、とても大型の植物です。熱帯性の植物であると言われています。日本には 3 か所でしか生育が確認されていません。熊本県山鹿市菊鹿町相良（あいら）の 1 本は、1952 年に「相良のアイラトビカズラ」として国の特別天然記念物に指定されています。2 本目は 2000 年に長崎県佐世保市九十九島の無人島の一つに生育していることが発見され、2002 年に報告されました。3 本目は 2010 年に熊本県天草市に生育していることが発見され、2012 年に報告されました。わずか 3 本しか確認されていないなかで、2 本が熊本県に生育していることになります。

かつて開花自体が珍しく、結実しなかったため種の同定が困難でしたが、1962 年に、当時の熊本大学薬学部助手であった浜田善利が植物ホルモン処理によってはじめて結実させたことにより、中国に分布する常春油麻藤 *Mucuna sempervirens* Hemsl. と同種であることが分かりました。

写真の標本は、2010 年に本センターの職員（当時）によって天草市の個体から採集されたものです。植物体が大きいため葉と花序を分けて標本にしてあります。花序の標本では、最下の花は解剖されていて、花の構造がよく観察できます。（前田　哲弥）

図 1　枝と葉の標本

図 2　花序の標本

No.316 歴史　創立五十週年記念　學校沿革史・村沿革史（熊本市米村家資料）

図１　表紙

本資料は、飽託郡奥古閑村海路口村組合立奥古閑小学校（現在の熊本市立奥古閑小学校）が、昭和 27 年（1952）の創立 50 周年に際して制作した小冊子です。（図 1）

明治維新後の日本では、学校制度の確立を図って明治 5 年（1872）に基本法である「学制」を発布し、法整備が成されたことで全国的に小学校の設立が急速に進んでいきます。奥古閑小学校は、学制によって設立された奥古閑小学校と海路口小学校に由緒を持ち、明治 35 年（1902）に両校が統合され奥古閑尋常小学校となって以来、120 年余の歴史を有しています。

資料をひもとくと、表紙には校章と校歌が記載されていますが、着色された特徴的な校章が目を引きます。本文は最初に「奥古閑村は何時頃出来たか」と題する、奥古閑の起りについて考察する 1 頁ほどの文章、そして江戸時代の奥古閑村付近の干拓地の地図（図 2）と概要から成り、次に「学校はどうかわったか」と題した年表があり、学制発布以来の学校の沿革を紹介しています。これらの内容が全部で 10 頁ほどに収められています。奥古閑地区や小学校の成り立ちについて、その一端を知る事が出来る資料といえます。（古澤　広大）

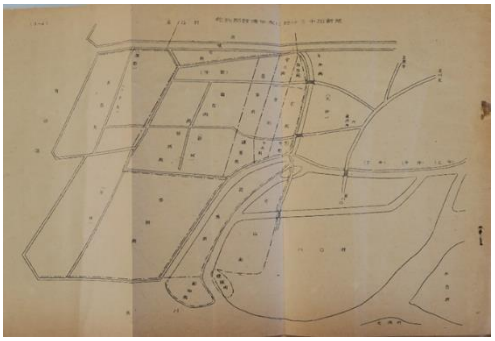


図２　干拓地の地図

No.317 地学　白亜紀後期の被子植物化石

私たちがよく目にする花を咲かせる植物は、被子植物であり、陸上の植物の中で最も種類が多いものです。これら被子植物は、陸上の植物の中では最も遅く出現しました。

被子植物の最古の化石記録は、イスラエルで中生代白亜紀前期の前半（約 1 億 3500 万～1 億 3100 万年前）の地層から産出した花粉化石です。大型化石については、中国東北部で白亜紀前期の後半（約 1 億 2600 万～1 億 1300 万年前）の地層から産出した植物全体の化石が最古のものです。その後、被子植物は多様化しながら分布を広げ、白亜紀前期の終わり（約 1 億年前）には、全ての主要群が出揃い、全ての大陸に被子植物が広がっていました。

図 1 は、御船町天君で産出した被子植物の化石です。詳しい種類はわかりませんが、広葉樹の葉の化石と思われます。産地一帯には白亜紀後期（約 8500 万年前）の地層である御船層群上部層が分布しており、針葉樹などの裸子植物の化石とともに、被子植物の化石も多く産出します。この化石もそのうちの 1 つです。

熊本県内の白亜紀前期の地層では、被子植物化石は見られません。御船層群の被子植物化石は、被子植物の分布の広がりを示していると言えます。（廣田　志乃）

図１　広葉樹の葉の化石

No. 318
民俗

鰻筌（うなぎうけ）と鰻掻（うなぎかき）

図１　鰻筌（熊本市北区和泉町）

夏バテ防止のために、夏の土用丑の日にウナギを食べる習慣があります。これは平賀源内が広めたなど諸説ありますが、万葉集にも夏痩せにはウナギを食べると良いという歌（巻十六 3853）が収められており、ウナギが滋養強壮に良いことは古くから知られていたようです。

ウナギは海で生まれ、ある程度成長したら、春に川を遡って淡水域で数年を過し、産卵の時を迎えたら、秋に川を下って海に向います。このためウナギは県内の干潟から河川の上流水域までの各地で捕ることができ、様々な伝統的漁法がありました。　図１は鰻筌という道具です。直径 8cm、長さ 60cm ほどの細長い筒状に編んだ竹籠で、県内ではウナギテゴ、ウナギテボなどと呼ばれます。河川の上流から下流まで、用水路、湖沼など各地で使われていました。　ウナギは「ウナギの寝床」という言葉の由来どおり、細長く狭い場所を好むので、竹筒などを沈めるだけでも捕れますが、鰻筌は口に先の尖った竹へらを円錐形に編んだものを差し込むのが特徴です。

図２　鰻掻（宇城市不知火町松合）

図３　鰻掻の鉤（拡大）

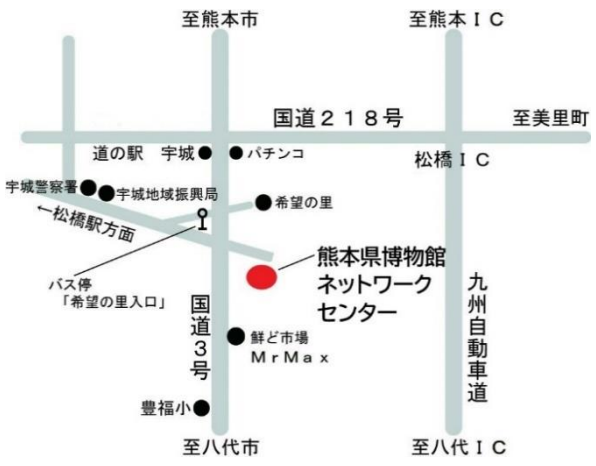
ウナギは夜行性なので仕掛けは夕方に行います。筌の底に餌を入れ、筌の口を川下に向けて水底に沈めておくと、嗅覚にすぐれたウナギが下流から遡ってきて筌の中に入り、円錐形の返しによって外に出られなくなったウナギを翌朝ひきあげて捕獲するという漁法です。ウナギは肉食で様々な小動物を食べるので、餌にはミミズやタニシ、カニなどが使われます。ウナギの食欲が旺盛になる夏場が最漁期です。

図２は鰻掻という道具です。湾曲した細長い棒の先端に鉄製の鉤（図３）をつけたもので、川岸の穴や石垣の間、河口付近の泥の中などに潜んでいるウナギを掻きあげて捕えます。県内では干潟で広く使われ、舟の上から使う、柄が４m近くあるものもありました。

干潟では、秋から冬にかけて、産卵のために川を下ってきた「下りウナギ」が捕れますが、現在は資源保護のため、この時期の採捕は禁止されています。（迫田　久美子）

熊本県博物館ネットワークセンター

ISIL JP-2004104

〒869－0524　宇城市松橋町豊福 1695
TEL：0964－34－3301　　FAX：0964－34－3302
E-mail：hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp
HP：https://kumamoto-museum.net/kmnc/

[公共交通機関]
○九州産交バス
　松橋バスターミナルより宮原経由
　八代産交行き「希望の里入口」下車
○ＪＲ
　松橋駅より約 3 km